

第5回二宮町総合計画審議会 会議要旨

日 時 2019年2月21日(木) 午前9時30分～午前11時30分

場 所 二宮町役場 第1委員会室

出席者 委員10名

真鍋明裕会長、山内みどり副会長、丸山尚子委員、脇一男委員、古澤有三委員、
伊勢田博司委員、手塚明美委員、荒木泰弘委員、遠藤安芸子委員、小野智美委員

町職員 黒石政策担当参事

事務局 企画政策課2名

欠席者 野谷和雄委員

傍聴者 1名

配布資料

資 料1 第5次二宮町総合計画後期基本計画に係る答申書

会議概要

1. 開 会

2. あいさつ

3. 答申

4. 町長あいさつ

町長 : 委員の皆さまには限られた時間の中で、慎重にご審議いただき大変感謝しています。後期基本計画は、第5次二宮町総合計画の10年間の集大成となる計画です。後期の4年間では、基本計画に基づいてまちづくりを着実に推進するだけでなく、その後のまちづくりも見据え、しっかりとつなげていくことが重要であると考えています。推進にあたっては、行政の力だけでなく、町民の力は大変重要であり、基本構想の3つの理念に基づいて、町民と行政がしっかりと連携し、ともに成長していけるまちづくりに取り組みます。町民や地域の力を発揮していただくために、20地区の再編の検討を始め、地域コミュニティにおける様々な課題にしっかりと向き合って進めていきます。また、持続可能なまちづくりのために、行政自身も経営をしっかりと見直し改革を行います。本審議会で意見交換された内容については、議事録などで確認していますが、本日は各委員から率直な意見を聞かせていただきたいと思います。

5. 意見交換会

委員 : 審議会では、それぞれの立場や視点からのご意見を伺うことができました。自分

もいくつか意見を申し上げましたが、計画書に反映していただきました。今後も県の立場から町の取り組みを応援していきたいと思います。

委員：町は、今後公共施設の再編や新庁舎移転、人口減少などの多くの課題があります。2040年においては、高齢者人口と14歳から64歳の生産年齢人口の構成バランスが、それぞれ約44%と同程度になると町は推計しています。その状況を踏まえて、行政も議会もまちづくりに真剣に取り組んでいってほしいと思います。財政も厳しくなるとは思いますがその辺も含めてお願いします。

委員：人口減少が進む中、町の活性化の一つの取り組みとして、二宮駅前の商店会の活性化は重要です。そのため、後期基本計画では、商工業のことについても積極的に取り組んでほしいと思います。観光事業については、菜の花を楽しみにした観光客が1、2月に沢山訪れているので、そうしたことを活かしながら観光事業をさらに活性化していただきたいです。また、菜の花以外の事業も生み出していく必要があります。我々もできる限りのことをやっていきたいと思っています。

委員：後期基本計画を策定するだけでなく、その計画の着実な推進が重要です。そのため、後期基本計画に基づく実施計画をしっかりと作成し、確実な実行をお願いします。今後ますます少子高齢化が進んでいますが、素晴らしい町が残っていけるよう、計画に基づいて着実に推進していただきたいと思っています。社会福祉協議会は、町と両輪となり福祉分野における様々な活動を通じ、まちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

委員：最近、経済界なども社会的な活動を後押しする方向にシフトしているように思います。しかし、給与などの経済的や生活的な面から、住民力を発揮する環境はなかなか厳しいことも実情としてあります。そんな中、財政的な理由から市民活動の補助金を全てカットした自治体では、補助金がなくなったことにより、市民活動が実施できなくなることが予想されましたが、実際には、住民同士が実行するために必要なアイデアを積極的に出し合い、活動を継続している事例があります。どんな置かれた状況でも出来ることはあり、様々な視点から色々知識を出し合うことはとても大事です。本審議会では、活発な議論が行われていた印象が強く、まちが大好きだという想いが伝わってきました。これからもお手伝いできることがあれば、ぜひ協力したいと思っています。

委員：二宮町だけではなく、日本全体が変わっていく節目の時にあります。小さな変化から起こることに着目し育てていくことが重要です。最終的には町に住んでいる人、関わっている人が満足することがよいことです。そのためには、日々の生活の中から、鳥の目、魚の目で見ながら取り組んでいく必要があります。引き続き提言できる場があれば役に立ちたいと思います。

委員：小中一貫教育も始まろうとしている中で、今後どのようなカリキュラムになるのか保護者はとても興味を持っています。今後教育委員会がまとめた計画を受け止め、子どもたちを温かく見守ってきたいと思っています。PTAを始め保護者は、一人ひとりが思いを持って子どもに何ができるだろうと考え活動しています。少子化の影響が大きい一色小学校では、児童数は少ないものの、子どもたちはのびの

びと生活しており、また教師もしっかりと児童と向き合いながら生活しています。何かを実行するにあたり、学校でも行政でも財政が厳しいと言われてしまうが、財政が無い状況から生まれる力やアイデアがあります。あるのが当たり前だと思わず、状況に併せて行動するのが大事です。ただし、その中でも必要なところは財政を充てるべきなので、行政には支援をお願いします。町民として協力できることを今後も考えていきたいと思えます。

委員：正直、最初は本審議会に参加しても議論の内容がよく理解できなかった部分があり、観察するような感覚で参加していました。町のために、町民や行政が色々なことを考えていることが分かり大変勉強になりました。保育園に行く子どもをもつ親は、町のことを考える時間がなく、町に関心がないのが正直なところ。町に移住する人の中に、海の景色や里山風景に憧れて移り住んでくる人がおり、町を褒められることがうれしく感じます。新しい施設はなくても、そうしたいい場所があることが重要であると思えます。今後も、子育て世代がこういった場に参加していくことが必要だと思えます。

副会長：町には、生まれてからずっと町に住んでいるグループ、緑が丘や百合が丘、富士見が丘などの住宅地の造成時に移り住んできたグループ、今現在転入してきているグループと大きく3つのグループが住んでいます。こうした中で、どのように町の魅力を輝かせることができるかが問われているのだと思えます。町には様々な分野の専門的な知識を持った人が多く住んでおり、意欲的に町で活動しています。交通インフラは、ここ数年で大きく変わり、不自由なく首都圏へ通勤できるし、学生は都内に通学できます。利便性も良く、子育てもしやすいなどの部分が町の魅力として強く打ち出せると思えます。また、教育現場は過渡期にあります。一色小学校区では、意欲的に活動をしている方々の活動の下地があったため、コミュニティ・スクールがスムーズに始まりました。そうした点も含め、町はユニークな教育をしていると感じます。今後も様々なことをプラスの方向に捉え、子どもを伸ばしていただきたいと思います。今後計画がどのように推進されていくのか期待しています。

会長：本審議会の議論を通じて、2つのことを強く感じました。1つは、理念だけでなく、具体的な取り組みに踏み込んで議論ができたことです。この点については、情報開示の必要性も強く感じました。行政と町民の意識にギャップがあってははいけません。町民に適切に情報を開示し、安心してもらうことで、町民一人ひとりの本来の力が発揮することができます。もう1つは、前向きな将来展望を意識しながら議論できたことです。将来展望を持つには、町の資源は何かということ問い直すことが重要です。また、今の資源を活かすだけでなく、5、10年後に花開くことを目指し、種巻きを地道にやっていく必要があります。それにあたっては、何が有効なのかを見極めることも必要であり、短期的に成果はできませんが、長期的にみて必要であればやらなくてはなりません。一方、有効ではないと思ったら思い切ってやめることも重要です。その際に、答申の内容を何らかの形で生かしていただければと思えます。

町長 : 委員の意見を深く受け止めています。スピード感を持ってやらなければいけないことがあります。やはり情報開示が大切であると感じています。行政としても紙面やインターネットを利用して情報を発信していますが、町民へ伝わっていないのが現実と感じており、それをどう補っていくかという課題です。働き方改革も言われる中、町の人口規模を考えると、顔が見える中で説明していくことも有効だと感じています。人口減少社会などの大きな課題はありますが、町民の皆さまの暮らしは続けて行かなければなりません。その中で、心豊かに発展していく明るい方向性に向かっていけるように、行政が情報開示を通じ方向性を示していくことが重要です。財政の話もありましたが、緊急性や必要性のあるものについては、しっかりと予算を充てて対応すべきであると考えています。また、不足している部分については、町民や地域の皆さまの力も借りながら進めていく必要性も改めて感じています。小中一貫教育やコミュニティ・スクールは、見本に倣って進めていくものではなく、町の特성에合わせて検討していくもののため、どんな取り組みをするのか不明な点も多くあると思いますので、地域や保護者に丁寧に説明していきます。町の資源・魅力については、移住・定住や観光など様々なことに関連するものです。行政側がなかなか気づかない点もあるので、どんな小さなことでも構わないので今後も皆さまの意見を聞かせていただきたいと思います。それらをブラッシュアップして今後に繋げていきます。また、事業の有効性を見極めについては、なかなか容易ではありませんが、いただいた意見等を踏まえてしっかりと進めていきたいと思っています。お忙しい中、ご審議いただき感謝いたします。

6. 閉会